

国道3号 ひろかわ 広川町～やめ 八女市

参考資料

令和2年5月13日

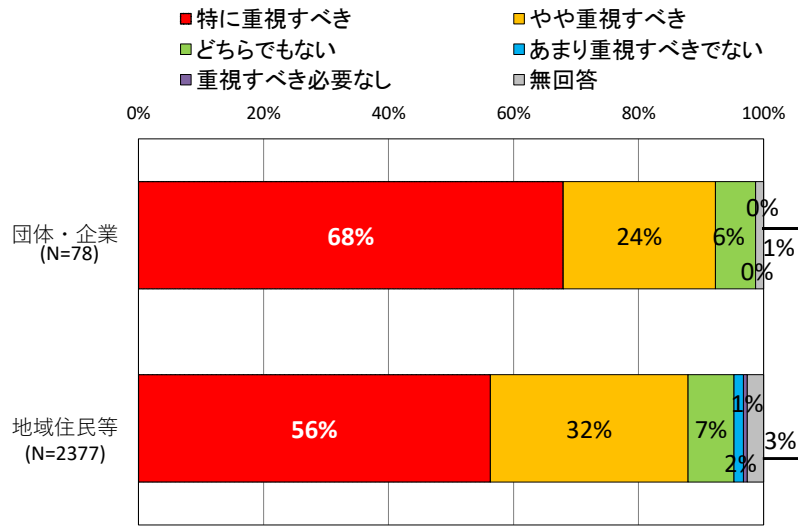
国土交通省 九州地方整備局

第2回意見聴取の結果 ルート帯案に関すること

第2回意見聴取の結果(ルート帯案の検討:「暮らし」-渋滞)

■自治体、団体・企業、地域住民への意見聴取結果 (①渋滞せずに円滑に移動でき、沿道施設を利用する交通の阻害を受けないこと)

- いずれの意見聴取方法においても、8割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、渋滞の解消、通過交通の分離などが求められている。
- 自治体意見においても、渋滞を解消させるため、通過交通と地域内交通を分離する道路整備が求められている。



※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

- 特に本村北から川瀬あたりの渋滞が大きく、国道3号はできるだけ避けるようにしている。案①の現道拡幅案が良いと思う。(団体)
- バイパスができれば、国道3号の大型車が減って、かなり効果があると思う。川瀬、新代が現状でかなり混雑しているので緩和できれば、かなり助かる。(製造業)
- バスを運行するにあたって、所要時間が短くなれば朝の時間も余裕を見る必要がなくなる。国道3号のバイパスができることで、国道3号の現道が空いて現道に入りやすくなると良い。(運輸業)
- この地域は高齢者が国道を利用すること、それが渋滞にもなり事故にもなる。トラックなどが利用出来るバイパスがあると解決する。(医療・福祉)

<自治体意見>

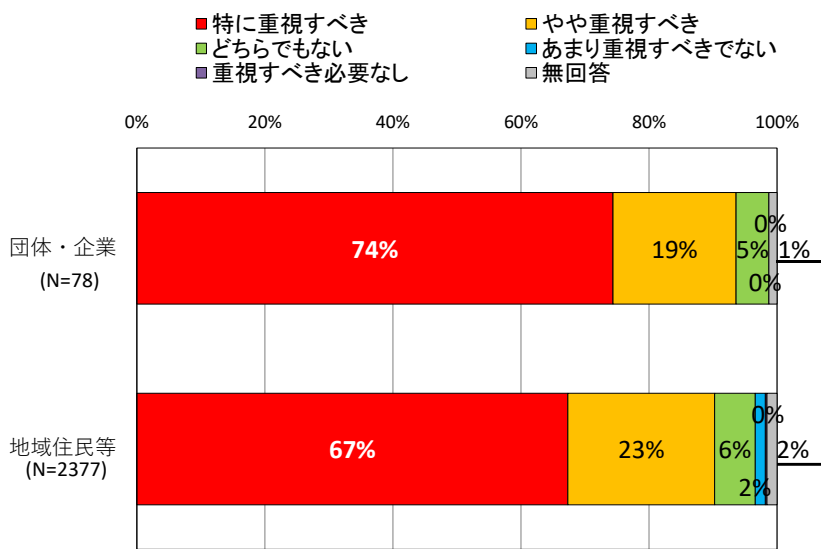
- ・東西からの交通が集中することにより渋滞が発生しており、**交通を分散させることが重要**であることから別線バイパス案が望ましい。(福岡県)
- ・市民の生活道路であるにもかかわらず、大型車をはじめとする通過交通が多く慢性的に渋滞が発生しているため、**国道3号沿線に用いない交通を排除**できるバイパス整備が必要。(八女市)
- ・案①、②の整備の場合は、国道3号の工業団地入口交差点への接続となり、国道3号の久留米市から広川町間の渋滞問題は継続して残ることから、**久留米市から広川町の交通分散も図られる案③の整備**が望ましい。(広川町)

- とにかく3号線は渋滞しているので、あまり通らないようにしています。渋滞の解消をお願いしたいです。
- 広川町、八女市市街地に全く用事がない自動車が、早く円滑にこの付近を通過できる事。
- 八女市街地方面に向かう車が多く、案②、③だと利用する台数が少ないことが予想されるため、案①が良いと思う。
- 渋滞するのは上津方面であり、八女方面に工事は必要ない。今後、人口も減る状況で、道路ばかり増やす必要はない。

第2回意見聴取の結果(ルート帯案の検討:「暮らし」-安全)

■自治体、団体・企業、地域住民への意見聴取結果 (②事故の危険性が少ないこと)

○いずれの意見聴取方法においても、9割以上が重視すべきという傾向にある。
 ○自由意見では、歩行者の安全性向上、人と車の分離などが求められている。
 ○自治体意見においても、通過交通を排除することで渋滞を緩和し、地域住民が安心して通行できる道路整備が求められている。



※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

- 通学時の安全性向上に繋がると良い。(団体)
- 病院前に横断歩道がないため、道路反対側のバス停に行く際に職員が横断歩道なしのところを横断しているが、先日死亡する事故が発生した。事故が少ないということが最も重要。(医療・福祉)
- 国道3号は事故が多い交差点が多いため、バイパスを整備して、人と車の分離をしてほしい。安全性を考えると、バイパスと交差道路は立体構造にした方がよい。(団体)
- 道路拡幅しても横断するのが高齢者等は大変になる。右折も大変になる。山間部から来た高齢者は町の交通量に慣れていない。今の幅で交通量が減る方が町にとって良い。(製造業)

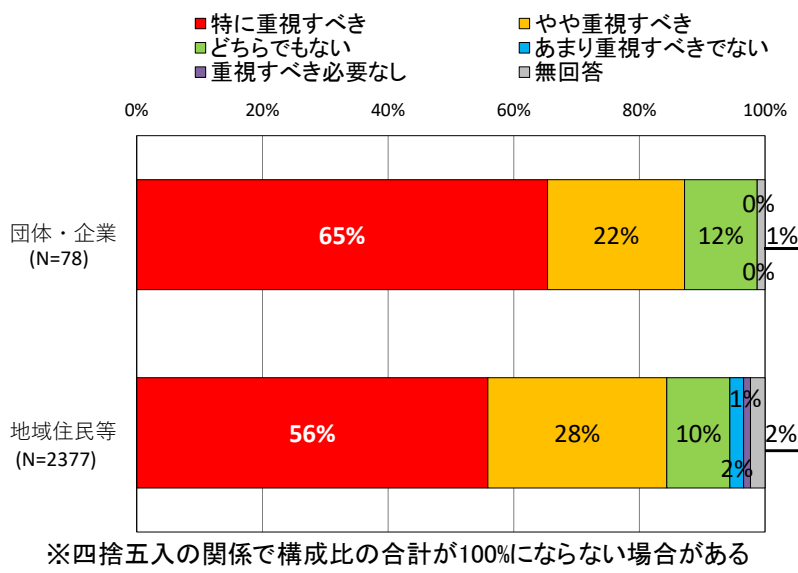
<自治体意見>
 ・**現道3号の渋滞の緩和のためには別線バイパス案**が望ましい。(福岡県)
 ・沿道施設への出入り時等の事故も発生していることから、**国道3号沿線に用いない交通を排除し渋滞が緩和されるバイパス整備**が必要。地域住民が安心して通行できる道路整備は重要と考える。(八女市)
 ・安心して通行できるためにも、**通過交通(特に大型車)を排除できる道路整備**が望ましい。(広川町)

- 大型車両の通行が多く、(特に朝・夕のラッシュ時交通量が多い)交通事故件数が多い。
- 現在の3号線、八女市付近では車輛が右に入る時入れず渋滞するし危険。イライラもするし、左、右からの店舗から出ようとする車も多く、危険である。
- 国道3号では交通事故、死亡事故等発生していて、道路拡幅する事で渋滞せず事故の危険性が少なくなり救急車、警察車等緊急事態でも円滑に走行できます。
- 国道3号は大型車が多く、危険な道路で、事故も多いため、バイパスを整備してほしい。
- 交通量が特に多くなり危険であり注意する必要がある。

第2回意見聴取の結果(ルート帯案の検討:「防災」)

■自治体、団体・企業、地域住民への意見聴取結果 (③災害や冠水時に国道3号の代替路として利用できること)

- いずれの意見聴取方法においても、8割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、災害時の代替路や災害に強い道路の整備などが求められている。
- 自治体意見においても、災害に強い代替路が必要との意見が寄せられた。



- 国道3号冠水時の代替に別ルートの検討をお願いします。(医療・福祉)
- 高速道路が通行止めの時に、バスの配車時間が読めなくて対応に苦慮しており、代替性の高い道路整備を進めてほしい。大雨の時に冠水で通行できなくなる区間があり影響が大きい。(運輸業)
- 福岡等へ混まずに安定して農産品を運ぶことが最も大切で、高速道路が止まった時に時間が全く読めなくなるのが一番の問題。(団体)
- 案③だと現道から遠すぎるため、冠水対策を行って、国道3号を拡幅する方がよい。(医療・福祉)

- 高速が通行止めの時に、到る所が大渋滞して道路が全く機能しないことへの対応が非常に重要だと思います。
- 案③は土砂災害の危険性があるのではないか。
- 3号線で大事故や冠水が起きると、4車線であったとしても機能しなくなるため、バイパス整備が望ましい。
- 今迄通りでよいと思います。道路より、河川広川の堤防のかさ上げが先ではないでしょうか、水害対策第一。

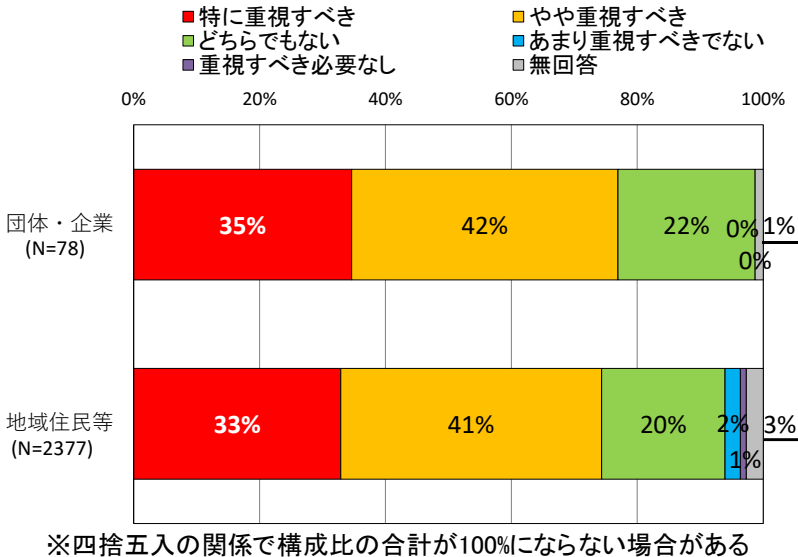
<自治体意見>

- ・**浸水想定区域を通過する距離が最も短い山側ルート**が望ましい。(福岡県)
- ・冠水対策も含めた**国道3号の代替路の確保**は重要と考える。(八女市)
- ・高速道路が通行止めとなった場合、高速利用者が国道3号に集中することから、**現国道3号に代わる新たな道路整備**が必要と考える。(広川町)

第2回意見聴取の結果（ルート帯案の検討：「産業」）

■自治体、団体・企業、地域住民への意見聴取結果（④輸送を効率化し、地域の企業活動・農業振興を支援すること）

- いずれの意見聴取方法においても、7割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、物資輸送にかかる時間短縮、八女市東部地域の活性化などが期待されている。
- 自治体意見においても、八女市東部地域から最寄りインターまでの所要時間短縮が重要視されている。



- 八女市の住民にとって、なんといっても国道3号が重要で、物資の輸送を考える上でも3号は重要で、バイパスだと大きく改善が図られると思う。（製造業）
- 八女市東部地区にとって農業と観光の振興が活性化には重要であり、産業の振興が若者の定住促進に繋がる。（建設業）
- 現在は最寄りの広川ICから高速道路を利用しているが、案③ができれば熊本方面への運搬は広川ICを利用しなくなる可能性もある。（建設業）
- 働き方改革が叫ばれる中、物流業界では時間短縮・効率化は最重要課題である。渋滞による時間のロスは最も無駄であり、省くべき時間である。「ドライバーの労働時間の制約のため、現在はトラック台数の1.3倍のドライバーを用意しなければならなくなった」と物流会社から聞いている。物流が円滑化すれば、こういった部分にも効果があるのではないかと。（団体）

<自治体意見>

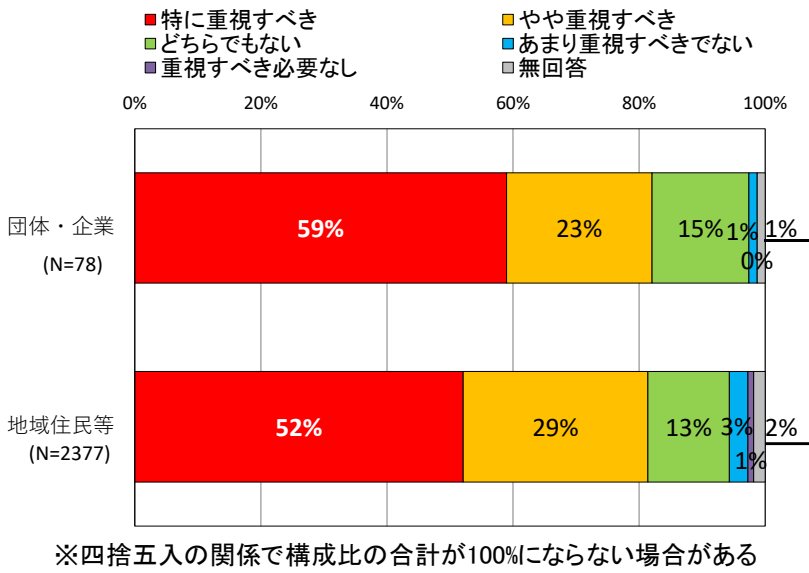
- ・八女市東部地域と広川ICまでの**時間短縮効果の高い山側ルート**が望ましい。（福岡県）
- ・八女市でも東部地域は特に農業が盛んであり、特産の農産物等をいち早く市場へ届けるためにも**東部地域から最寄りのインターまでの所要時間短縮は重要**と考える。（八女市）
- ・今後、本町では、広川ICに近いという立地特性を活かした**新たな工業団地等の開発も広川東部地域に検討**しており、町としては、**重要物流道路や産業道路として活用できる案③の道路整備**を望みます。（広川町）

- 上広川地区の過疎化、今後の広川町全体としての発展を考えると、企業の誘致、農業振興支援を積極的に行い、遠方からの人達を呼びよせる手段が必要だと思ふ。そのための第一歩として3号バイパスの存在は不可欠であると思ふ。
- 上広地域に定住可能な核となる企業・工場等を誘致・開発することとセットで道路の整備を進めて欲しい。
- 中山間部の農業の活性化を重視したい。現道拡幅案が望ましい。
- 様々な人が利用する国道であるため、輸送の効率化等はあまり重視できない。住民の生活に支障のない、利用が望ましい。

第2回意見聴取の結果(ルート帯案の検討:「医療」)

■自治体、団体・企業、地域住民への意見聴取結果 (⑤救急時に久留米医大、聖マリア病院に早く行けること)

- いずれの意見聴取方法においても、8割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、救急医療施設への搬送時間短縮などが求められている。
- 自治体意見においては、第3次救急医療施設までの30分圏域人口の拡大を重視する意見が寄せられた。



- 交通事故等も頻繁に起きており、生命を助けるための交通手段として一分一秒でも早く病院に到着することが大事である。(金融業)
- 緊急輸送時の対応策として救急車両の走行車線及び「ヘリポート」の設置。全体的に道路幅員の拡張が必要と思います。(団体)
- 現状の片側1車線は、救急車にとっては不便が大きい。救急時の病院への搬送については、現道拡幅案にしても融通が効くか分からないため、別線バイパス案が望ましい。(医療・福祉)
- そこまで多くは久留米医大までは運んでいないし、ドクターヘリもある。(団体)

- 国道3号線は死亡事故がとて多いのが気になります。現道拡幅することで、救急車などがスムーズに通れるようにしてほしい。
- 3号の渋滞時・冠水時等に救急車が代替路として利用できることを重視すべきであり、バイパス整備が良いと思う。
- 奥八女から久留米方面の病院に行きやすくなる案③を望む。
- 慢性的な渋滞により、緊急車両等の通行に妨げとなっている為。

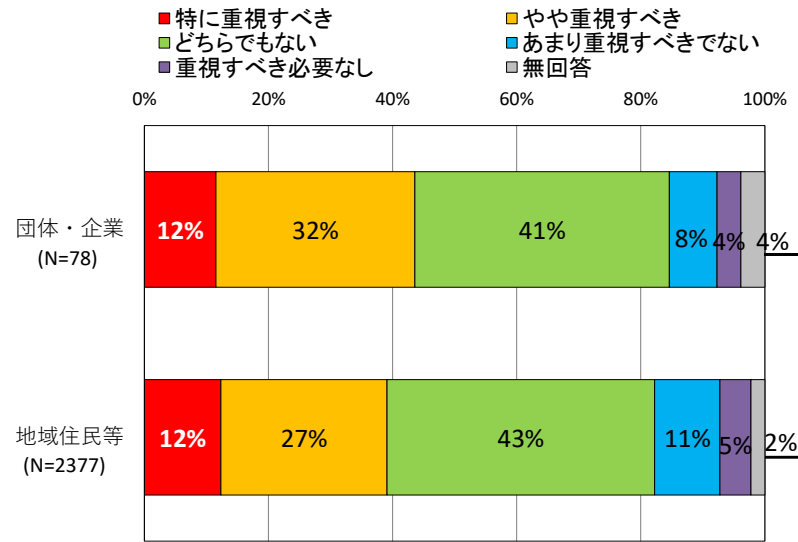
<自治体意見>

- ・久留米市の**第3次救急医療施設への30分圏域人口が拡大する別線バイパス案**が望ましい。(福岡県)
- ・八女市東部地域は過疎化、高齢化が進んでいる地域でもあるため、**東部地区から久留米市の救命救急センターまでの30分圏域人口のエリアが拡大**されることは望ましい。(八女市)
- ・第3次救急医療施設は、久留米市にしかなく、**将来的には久留米市方面へのアクセスも必要**と考える。(広川町)

第2回意見聴取の結果(ルート帯案の検討:「観光」)

■自治体、団体・企業、地域住民への意見聴取結果 (⑥観光地への所要時間が短いこと)

- いずれの意見聴取方法においても、3割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、観光産業の活性化に寄与する道路整備などが求められている。
- 自治体意見においては、観光地までの所要時間短縮を期待する意見が寄せられた。



※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

- 八女市東部地区にとって農業と観光の振興が活性化には重要となる。産業の振興が若者の定住促進に繋がる。(建設業)
- 渋滞せず移動できると来園するお客様に喜ばれます。また、お客様送迎で利用する時は所要時間が気にかかります。(宿泊、飲食業)
- 観光については、時間かけて見る場所もそんなにないため、時間かけて移動するのも楽しみではないか。(医療・福祉)
- 八女には人が集まってくるメインの施設がないため、バイパスだと通過する町になってしまう。案①の現道拡幅案が望ましい。(製造業)
- 国道3号が改善することで観光地へのアクセスが良くなる訳ではない。(製造業)

- 案③だと途中に「道の駅」を作り経済効果も期待できる。観光地としても効果を期待できる。観光「広川」が誕生するかもしれない。
- 観光や長距離トラックの方々に向けて、色々なルートが活用できると地域のPRになると思う。
- 観光については、多少時間が短縮しても、観光客は増えないのではないか。

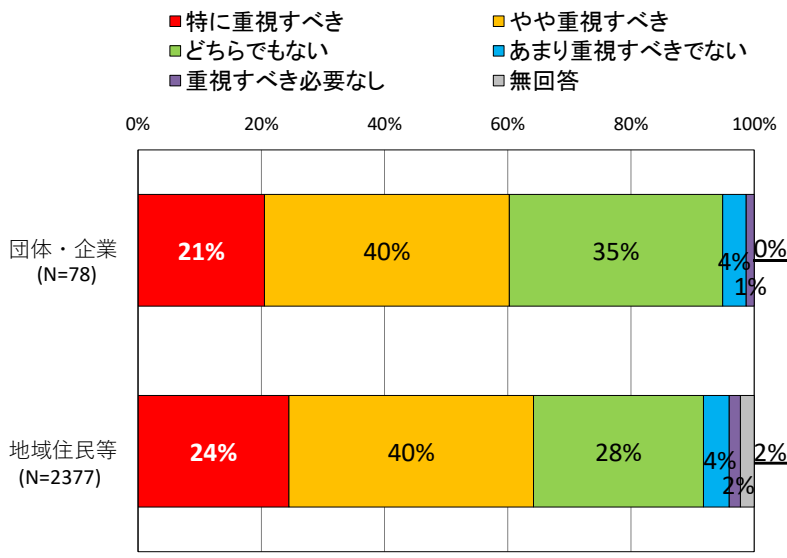
<自治体意見>

- ・八女市山間部地域から広川ICまでの**時間短縮効果の高い山側ルート**が望ましい。(福岡県)
- ・平成22年の市町村合併以来奥八女地域の観光開発に取り組んでおり、**都市圏からの観光客を呼び込む手段として所要時間の短縮は重要**と考える。(八女市)
- ・本町の観光資源は久留米餅等の地場産品であり、点在する餅工房へは車でアクセスが不可欠です。国道3号の渋滞は餅工房めぐり等に影響していることも考えられます。このため、**本町への観光地までの時間短縮は重要**と考える。(広川町)

第2回意見聴取の結果(ルート帯案の検討:「生活環境」)

■自治体、団体・企業、地域住民への意見聴取結果 (⑦生活環境(騒音など)への影響が小さいこと)

- いずれの意見聴取方法においても、6割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、騒音や振動などによる生活環境への影響が少ないルートなどが求められている。
- 自治体意見においても、生活環境への影響が小さいことを重視している。



※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

- 国道3号は現状で騒音大きい。特に辺春辺りの騒音大きい。(団体)
- 現状で国道3号での騒音はあまり気にはならない。(医療・福祉)
- 現状で騒音がしている感じはないので分からない。(医療・福祉)
- 現時点で騒音の影響は少ない。国道3号沿線は民家はなく店舗が多い。(製造業)

- 国道3号沿いは騒音が酷いので、新しい道路を整備して交通量を分散してほしい。
- 国道は騒音・振動がひどい。住宅地から離れたコースを通すべき。
- 緊急車両及び運送関係の重要な車両のスムーズで渋滞の無い運行が出来れば、事故や騒音低下になると思われるので、宜しくお願いします。
- 生活環境・家屋・店舗の移転・施工中の影響は、どの案になったところで、大差はないと思います。

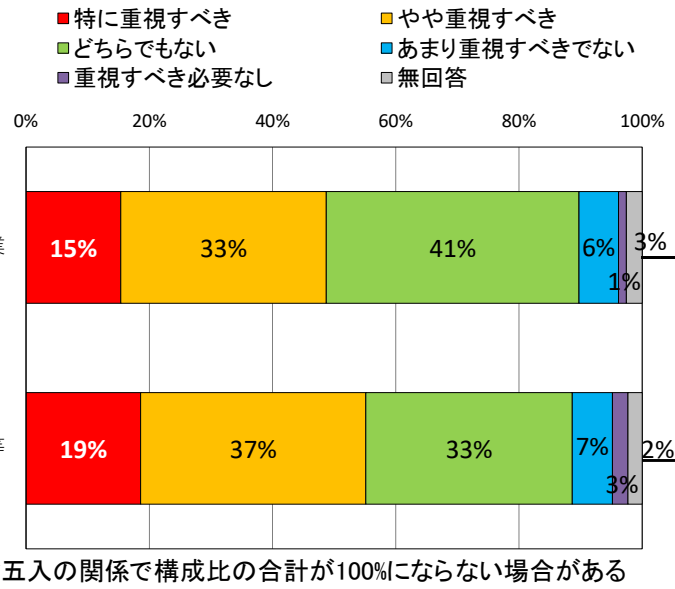
<自治体意見>

- ・生活環境への影響が小さい別線バイパス案が望ましい。(福岡県)
- ・事業の推進を進めるうえで、ある程度の影響(変化)は避けられないと考えるが、**施工時も含めた生活環境(騒音・振動等)の影響は最小限**である事が望ましい。(八女市)
- ・本線の国道3号沿いには、商業施設のほか、集落も密集しており、騒音・振動問題で悩まされている方もいます。このため、**集落地への影響が最小限となり、集落分断等による地域コミュニティの崩壊を招く道路整備は避けていただきたい。**(広川町)

第2回意見聴取の結果(ルート帯案の検討:「自然環境」)

■自治体、団体・企業、地域住民への意見聴取結果 (⑧自然環境(動植物など)への影響が小さいこと)

- いずれの意見聴取方法においても、4割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、自然環境への影響を小さくするべきという意見がある一方で、道路整備に伴う多少の自然環境の変化は仕方ないという意見も寄せられた。
- 自治体意見においては、田畑等の自然環境への影響が小さいことを重視している。



- 重要だと考えているので、案②の最短ルートが望ましい。(医療・福祉)
- 自然環境への影響を抑えつつ、通行する人に八女の資源である自然を見て貰うことが重要。バイパスルートで農業景観を見て貰う事で、八女らしさが伝わり印象に残るのではないかと。(卸売・小売業)
- 自然環境を壊してよいという訳ではないが、道路整備を行う為には仕方ないと思う。(医療・福祉)
- 道路が1本通るくらいであれば大したことはない。(製造業)

- できるだけ自然環境を壊さないようにして頂きたい。
- 山側ルートを作ることを考えたら久留米立花線を整備する方が望ましい。自然破壊すべきでない。
- 八女市と広川町の境には八女古墳群があり、重要文化財です。古墳群を破壊しないルート選定をして下さい。
- 自然への影響が少ない方がいいが、道を作るのだから、移転や多少の影響は仕方ないと思う。

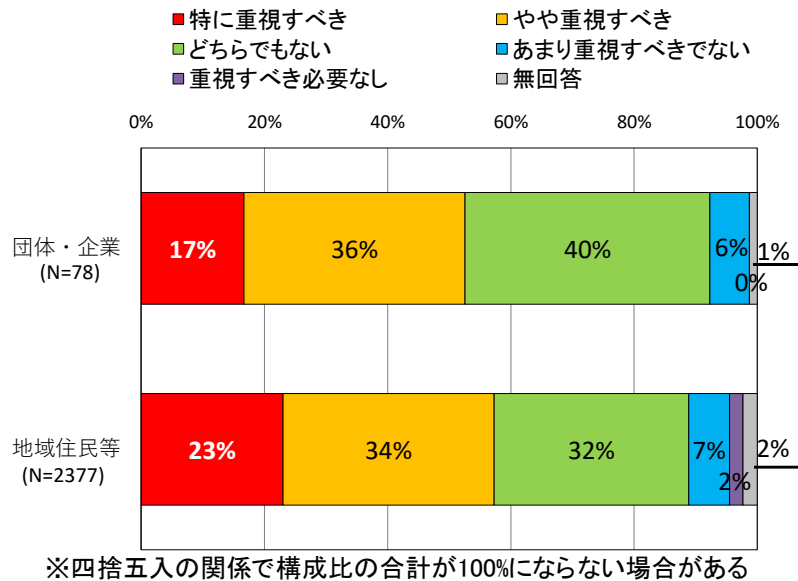
<自治体意見>

- ・自然環境への影響が小さい現道拡幅案が望ましい。(福岡県)
- ・事業の推進を進めるうえで、ある程度の影響(変化)は避けられないと考えるが、農業が盛んな地域でもあるため田畑の改変等は最小限である事が望ましい。(八女市)
- ・国道3号のバイパス化によって、自然環境に親しめる道の駅構想も検討しています。一方で、農業基盤となる農地については、ほ場整備等で区画整備しており、こうした整形された区画を斜めに切り取るような道路計画はできる限り最小限にして頂きたい。(広川町)

第2回意見聴取の結果(ルート帯案の検討:「家屋への影響」)

■自治体、団体・企業、地域住民への意見聴取結果 (⑨家屋や店舗の移転が少ないこと)

- いずれの意見聴取方法においても、5割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、家屋・店舗の移転を極力少なくすることなどが求められている。
- 自治体意見においても、家屋・店舗への影響は最小限とすることが求められている。



- 国道3号を4車化する場合、沿線の商業施設等の買収等は困難になる。時間もかかる。バイパス整備であれば供用も早くなる可能性もあり、バイパス整備を望む。(建設業)
- 移転は少ない方が良いと思う。(製造業)
- 現道拡幅案は、沿線の立地状況を考えると現実的ではなく、バイパス整備の内容については国の政策判断にお任せしたい。(団体)
- 現道拡幅の場合、移転する家屋などが多いため、費用だけでなく整備に要する時間も嵩むのではないか。用地の取得に関しては、山側ルートが最も容易であろう。(団体)

<自治体意見>

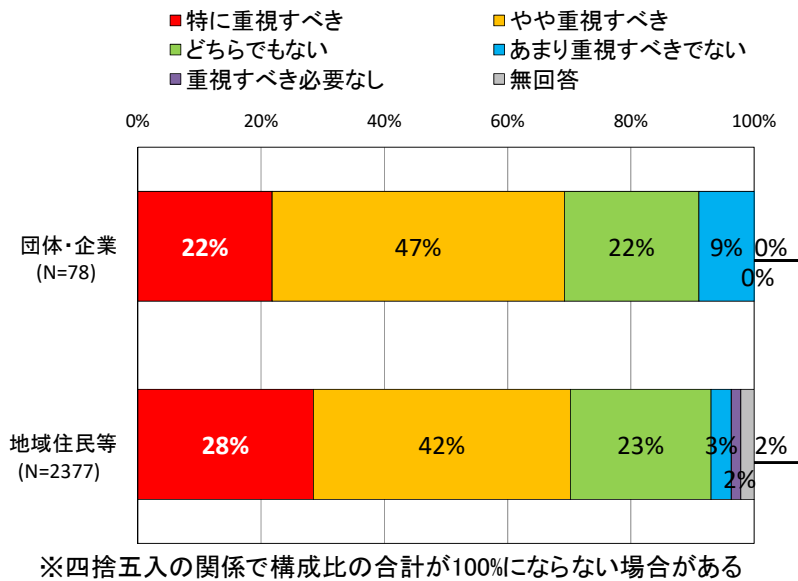
- ・家屋・店舗への影響が小さい別線バイパス案が望ましい。(福岡県)
- ・事業の進捗を進めるうえで、ある程度の影響は避けられないと考えるが、八女市の人口減少は過去40年間で約1/4減少していることから、家屋や店舗への影響は最小限である事が望ましい。(八女市)
- ・家屋・店舗への影響は出来る限り最小限に留めてもらうことを希望。特に集落分断等による地域コミュニティの崩壊を招く道路整備は避けていただきたい。(広川町)

- 案①は家屋等の移転があるので現実的に難しいと思う。
- 一般住宅は「どちらでもない」でいいが、店舗・工場等はその場所しか成りたない事もあるので十分に検討・補償が必要。
- 家屋や店の移転が、そのまま市外への移転になってしまわないように(人口流出につながらないように)、移転の数は極力、少なくした上で工事をお願いします。
- 集落・市街地を可能なかぎり回避した別線バイパス案(山間ルート)が良いと思う。
- 沿線での商売(店舗)新しい道路が出来ると簡単に移転できないので、既存線の拡張をお願いしたい。振興とはなにか、お金持ちだけが移転できる事が地域振興だろうが、土橋商店街(旧442沿いの商店)のようになってしまいます。

第2回意見聴取の結果(ルート帯案の検討:「沿道利用」)

■自治体、団体・企業、地域住民への意見聴取結果 (⑩沿道からの利用が便利なこと)

- いずれの意見聴取方法においても、6割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、沿道の商業施設等への利用者が減少すると懸念する意見と、交通量が分散され、国道3号の交通量が減少することで、沿道の施設利用がしやすくなるのとの意見などが寄せられた。
- 自治体意見においては、新たな沿線開発が期待できる道路整備が求められている。



- バイパスが整備されて、通過されるだけになってしまうことは懸念される。(運輸業)
- 現道拡幅案が一番良い。バイパス案になると店舗が遠くに移転してしまうかもしれない。(製造業)
- 山間部を通っても現国道3号に用事がある交通は行き易くなるので、さびれる心配は余りないと思う。(団体)
- 国道3号が4車線に拡幅されると、沿道の店舗への出入りは2車線を跨ぐ右折になり、利用しにくくなるのではないか。(卸売・小売業)
- 藤山線や国道3号バイパスからアクセスしやすいようにということを考えると特に重視すべきだが、国号3号現道からの利用ということであればあまり重視すべきではない。(製造業)

<自治体意見>

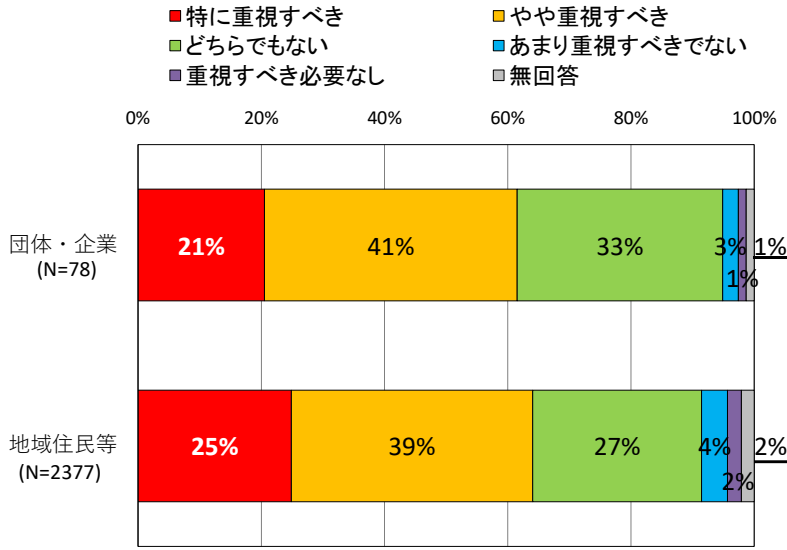
- ・**新たな沿線開発が期待できる別線バイパス案**が望ましい。(福岡県)
- ・スプロールを抑制することは重要であるため、**郊外型店舗等の立地がより抑制される久留米立花線以東のバイパス整備**が望ましい。(八女市)
- ・まちづくりには道路整備は不可欠であります。本町では、住宅地から離れた道路を望んでいますが、そうした**バイパス道路の沿線に新たな工業団地や道の駅等の整備**を検討している。(広川町)

- 案①が望ましい。バイパスにすると町が廃れてしまう。
- 町の中心商業地区の利用がしやすいようにしてほしい。
- バイパス整備をして大型車の通過交通を現在の国道3号から分離すれば、沿道の活性化に繋がる。

第2回意見聴取の結果（ルート帯案の検討：「施工中の影響」）

■自治体、団体・企業、地域住民への意見聴取結果（①施工中の影響が小さいこと）

- いずれの意見聴取方法においても、6割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、工事中的影響を極力少なくすることが求められている。
- 自治体意見においても、工事中的影響が少ない道路整備が求められている。



※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

- 工事中に緊急車両の運行に大きな影響を与える現道拡幅の案①は非常に厳しく、交通分散が可能なバイパスによる代替路整備が望ましい。（団体）
- 施工中の影響が小さいに越したことはない。期間にもよるが、八女にとっては最重要な道路であるため、車線規制等が発生すると影響が大きい。（製造業）
- 道路拡幅だと工事中的影響がかなり大きくなる。（製造業）
- 施工中の影響が少ないに越したことはないが。（医療・福祉）
- 道路整備するのであれば仕方がない。（運輸業）

- 通勤でほぼ使っているので、通行止めや遠回りしなければならないのは困ります。
- 工事中に大渋滞が発生しないようにして頂きたいです。
- 現道拡幅案①は工事中に渋滞を引き起こすことになるため、あまり現実的ではない。
- 工事の期間は短いと思います（出来あがるまでの期間）。
- 生活環境・家屋・店舗の移転・工事中的影響は、どの案になったところで、大差はないと思います。

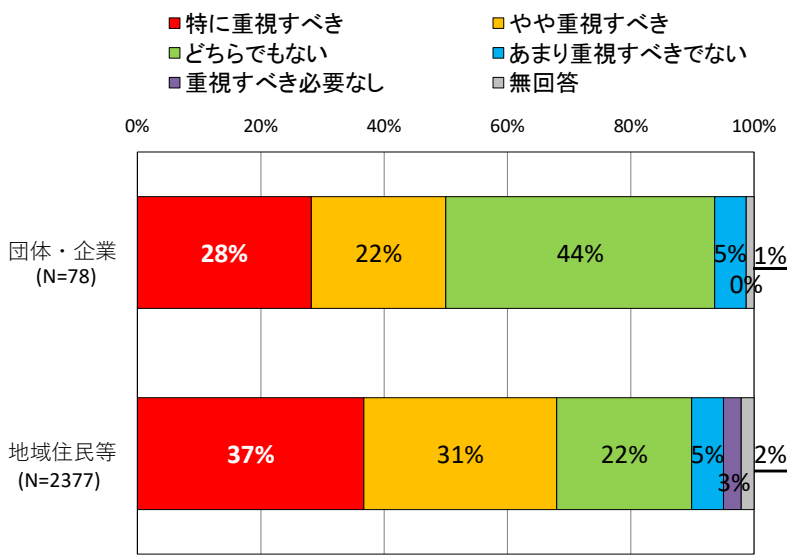
<自治体意見>

- ・一般車両への影響が少ない別線バイパス案が望ましい（福岡県）
- ・八女市としては**当該区間への新たな道路整備はできる限り早く施工着手、供用を望んでいる**ため、集落や店舗等への影響を最小限に抑えることは重要と考える。（八女市）
- ・**現道拡幅であれば、渋滞している道路のさらなる悪影響も考えられます**。現国道3号は、主要都市を結ぶ基幹幹線道路であり、この道路の麻痺は様々な影響を与えます。また、**集落分断等による道路整備は施工中にも影響が大きい**ことから、集落等への影響が最小限となる道路整備を望みます。（広川町）

第2回意見聴取の結果（ルート帯案の検討：「コスト」）

■自治体、団体・企業、地域住民への意見聴取結果（⑫整備費用が安いこと）

- いずれの意見聴取方法においても、5割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、費用を抑えることは重要だが、多少費用をかけてでも利便性の高い道路の整備が求められている。
- 自治体意見においては、費用対効果を考慮し、できるだけ抑えるべきとの意見が寄せられた。



※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

- 住民の負担感を極小化し、費用対効果の高い取り組みを期待します。（金融業）
- どの案になったとしてもコストを抑えることが重要だと考える。お金がかかったとしても、20～30年後のためになる道路整備が必要である。（医療・福祉）
- 費用が安ければ良いとは思わない。費用と効果のバランスだと思う。（建設業）
- これより先、数10年利用する事を考え、多少整備費用が掛かるうとも、利便性の高い道路を造ってほしい。（建設業）
- 安いだけだと安全性が不安になる。（団体）

- 費用が安く工期が短縮されること。早期に完成を望みます。
- 他の道路は必要ない。その費用はもっと必要な案件に使用すべき。
- 現道拡幅案の場合、整備に時間がかかり、費用も多くかかる。
- 300億ものお金を使わずに（主）久留米立花線が現在、整備されているので、兼松とかせまい所の問題を解決し、久留米立花線にバイパス機能を持たせた方が早いと思います。
- 人のいない山地を使って道路を作ったとしても、建築費用は下がるかもしれないが、維持管理に費用高となるので、平野部につくった方が良い。山側ルートでは、町民・市民の活用度も低くなると思われる。

<自治体意見>

- ・コストが最も低い山側ルートが望ましい。（福岡県）
- ・費用対効果を考慮しできるだけ抑えるべきではあるが、走行性や安全性など必要な機能を満足したうえでの整備は重要と考える。（八女市）
- ・公共事業の費用対効果は重視されるものであり、少しでも安価な道路整備を望みます。（広川町）

第2回意見聴取の結果 <自由意見:分類別の主な意見>

○自由意見における内訳（説明資料P20）の主な意見は下表のとおりである。

分類	主な意見
道路整備への要望 (365票)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の3号線の朝夕の渋滞状況は広川・久留米間が特にひどいと思われるため、広川・八女の間のみではなく、久留米地区を含めた渋滞対策を考える必要がある。 ・いずれ久留米市からのバイパスとの連結も考慮した方が良い。 ・立花～鹿北間の3号線バイパス工事を急いで欲しい。 ・3号線バイパスより、久留米立花線の整備を先に行った方が良くと思います。 ・3号線から沿道への右折専用レーンの数を増やしてほしいと思います。 ・時間帯に応じた信号時間の調整。 ・路面のデコボコが多く、トラックが通るたびに大きな音と振動で眠れないほどです。どうにかして頂けないでしょうか。立花町上辺春在住です。 ・最近、災害の強さが増しており、強風による電柱被害による停電が全国的に問題になっています。道路建設の際は合わせて、電線の地中化対策も検討し、景観対策を進めていただきたい。 ・歩道・バリアフリー（車イス・お年寄りが歩きやすく）、学校等に配慮した道作りをお願いします。 ・施工中に大渋滞が発生しないようにして頂きたいです。
早期整備への期待 (60票)	<ul style="list-style-type: none"> ・1日でも早く整備してほしい。 ・慢性的に渋滞が発生しているので早急に対策をお願いしたい。 ・夕方の渋滞がひどく、高速道路が何らかで通行止めとなると全く交通が動かなくなるので、早期の着工をお願いしたい。 ・安全第一とし、スピードをもってやること。短期間で（短時間）で仕上げること。 ・上広川校区の過疎対策として大きな意味と力を持っている。地域住民全てが期待している。豊かな自然をいかした夢と希望のある未来の定住地（災害にも強い）を目ざしたい。早期実現を願っています。
反対意見 (39票)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の国道3号線で十分です。これ以上必要のない予算を使わないで。 ・県道713号や（主）久留米立花線をしっかりと整備することで3号の渋滞は改善すると考えている。既存の事業をしっかりと優先して完成させるべきだ。車の台数が減少する中で、新しい道路は必要ないのでは？ ・人口が減少していく時代に新たな道路の建設が必要なのでしょうか？既存の橋の補修、道路面の改修もあります。道路建設費は、私達の税金です。 ・私には良く解りません。今迄通りでよいと思います。道路より、河川広川の堤防のかさ上げが先ではないでしょうか、水害対策第一。 ・交差点改良で十分と思う。バイパスは不要です。
その他 (65票)	<ul style="list-style-type: none"> ・照明を増やしてほしい（国道以外について）。 ・どれも重視すべき事項ばかりで軽視できる項目はない。まったく無駄なアンケートである。これこそ必要のない作業であり、経費の無駄です。 ・高齢ドライバーによる事故が多発しています。できれば、公共バス、コミュニティを巡回できる乗り物等が通れるような路線整備を望みます。 ・費用に対し効果があるのか知りたい。 ・街路樹は最初見た目は良いが、維持管理に費用が掛かり過ぎないか？落葉が溝に詰まり冠水の原因にもなる。

※「ルート帯案に関する自由意見（324票）」については、説明資料のP21～P24に記載。

第2回意見聴取の結果（自治体への意見聴取結果）

■自治体への意見聴取結果【福岡県】

最適なルート帯および構造の検討に必要な「重視すべき事項」について		意見（福岡県）
①	渋滞せずに円滑に移動でき、沿道施設を利用する交通の阻害を受けないこと	東西からの交通が集中することにより渋滞が発生しており、交通を分散させることが重要であることから別線バイパス案が望ましい。
②	事故の危険性が少ないこと	現道3号の渋滞の緩和のためには別線バイパス案が望ましい。
③	災害や冠水時に国道3号の代替路として利用できること	浸水想定区域を通過する距離が最も短い山側ルートが望ましい。
④	輸送を効率化し、地域の企業活動・農業振興を支援すること	八女市東部地域と広川ICまでの時間短縮効果の高い山側ルートが望ましい。
⑤	救急時に久留米医大、聖マリア病院に早く行けること	久留米市の第3次救急医療施設への30分圏域人口が拡大する別線バイパス案が望ましい。
⑥	観光地への所要時間が短いこと	八女市山間部地域から広川ICまでの時間短縮効果の高い山側ルートが望ましい。
⑦	生活環境（騒音など）への影響が小さいこと	生活環境への影響が小さい別線バイパス案が望ましい。
⑧	自然環境（動植物など）への影響が小さいこと	自然環境への影響が小さい現道拡幅案が望ましい。
⑨	家屋や店舗の移転が少ないこと	家屋・店舗への影響が小さい別線バイパス案が望ましい。
⑩	沿道からの利用が便利なこと	新たな沿線開発が期待できる別線バイパス案が望ましい。
⑪	施工中の影響が小さいこと	一般車両への影響が少ない別線バイパス案が望ましい。
⑫	整備費用が安いこと	コストが最も低い山側ルートが望ましい。

第2回意見聴取の結果(自治体への意見聴取結果)

■自治体への意見聴取結果【八女市】

最適なルート帯および構造の検討に必要な「重視すべき事項」について	意見(八女市)
① 渋滞せずに円滑に移動でき、沿道施設を利用する交通の阻害を受けないこと	市民の生活道路であるにもかかわらず、大型車をはじめとする通過交通が多く慢性的に渋滞が発生しているため、国道3号沿線に用のない交通を排除できるバイパス整備が必要。
② 事故の危険性が少ないこと	片側1車線の道路を大型車が多く走行することで視界も悪く、また、通学路に指定された区間もあるが歩道幅員も狭く大変危険と感じる。沿道施設への出入り時等の事故も発生していることから、国道3号沿線に用のない交通を排除し渋滞が緩和されるバイパス整備が必要。地域住民が安心して通行できる道路整備は重要と考える。
③ 災害や冠水時に国道3号の代替路として利用できること	今年の8月にも経験したが、大雨等による異常気象が発生した場合、高速道路が通行止めとなり国道3号に交通が集中し市民の生活のみならず物流等にも支障をきたした。また、過去には国道3号の一部で冠水し通行できない状況も発生した。このような経験も含め、冠水対策も含めた国道3号の代替路の確保は重要と考える。
④ 輸送を効率化し、地域の企業活動・農業振興を支援すること	八女市でも東部地域は特に農業が盛んであり、特産の農産物等をいち早く市場へ届けるためにも東部地域から最寄りのインターまでの所要時間短縮は重要と考える。
⑤ 救急時に久留米医大、聖マリア病院に早く行けること	八女市東部地域は過疎化、高齢化が進んでいる地域でもあるため、東部地区から久留米市の救命救急センターまでの30分圏域人口のエリアが拡大されることは望ましい。
⑥ 観光地への所要時間が短いこと	観光地の周辺が渋滞することは仕方がないが、そこに行き着くまでの道路が渋滞しているのは遠方からの利用者に敬遠されがちと感じている。平成22年の市町村合併以来奥八女地域の観光開発に取り組んでおり、都市圏からの観光客を呼び込む手段として所要時間の短縮は重要と考える。
⑦ 生活環境(騒音など)への影響が小さいこと	事業の推進を進めるうえで、ある程度の影響(変化)は避けられないと考えるが、施工時も含めた生活環境(騒音・振動等)の影響は最小限である事が望ましい。
⑧ 自然環境(動植物など)への影響が小さいこと	事業の推進を進めるうえで、ある程度の影響(変化)は避けられないと考えるが、農業が盛んな地域でもあるため田畑の改変等は最小限である事が望ましい。
⑨ 家屋や店舗の移転が少ないこと	事業の進捗を進めるうえで、ある程度の影響は避けられないと考えるが、八女市の人口減少は過去40年間で約1/4減少していることから、家屋や店舗への影響は最小限である事が望ましい。
⑩ 沿道からの利用が便利なこと	スプロールを抑制することは重要であるため、郊外型店舗等の立地がより抑制される久留米立花線以東のバイパス整備が望ましい。
⑪ 施工中の影響が小さいこと	八女市としては当該区間への新たな道路整備はできる限り早く施工着手、供用を望んでいるため、集落や店舗等への影響を最小限に抑えることは重要と考える。
⑫ 整備費用が安いこと	費用対効果を考慮しできるだけ抑えるべきではあるが、走行性や安全性など必要な機能を満足したうえでの整備は重要と考える
その他	八女市では、少子高齢化に伴う、人口減少が続いており、定住対策や観光入込客の増加に繋がる東部地域の開発に特に力を入れており、また、現国道3号の渋滞対策や安全対策等地域の抱える諸問題を早期解決していくためにも、バイパスでの整備を強く要望します。

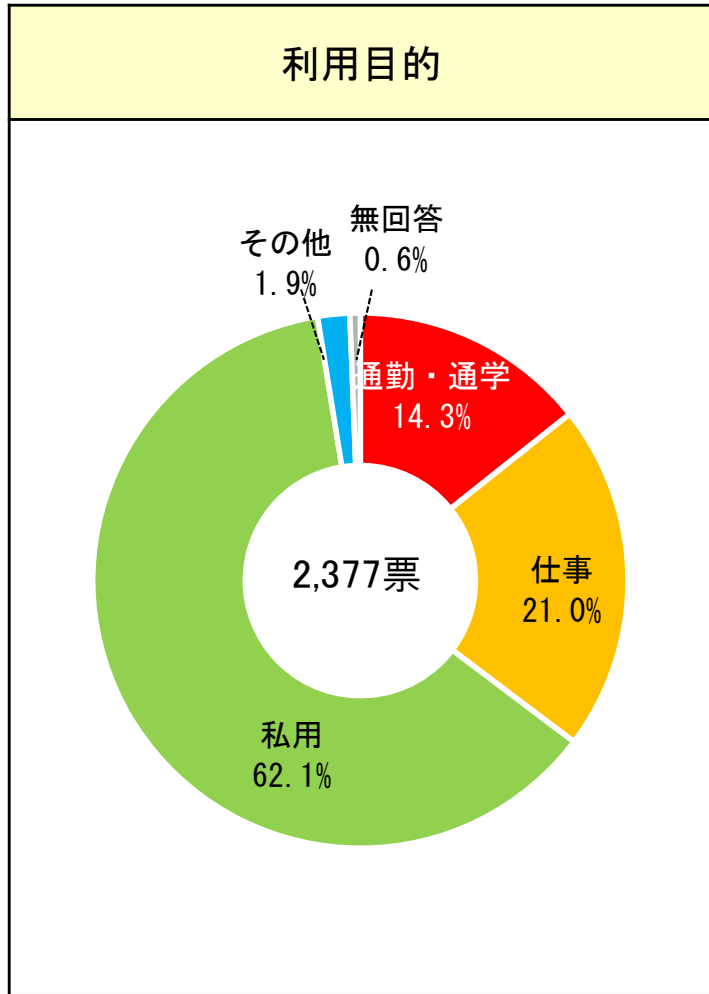
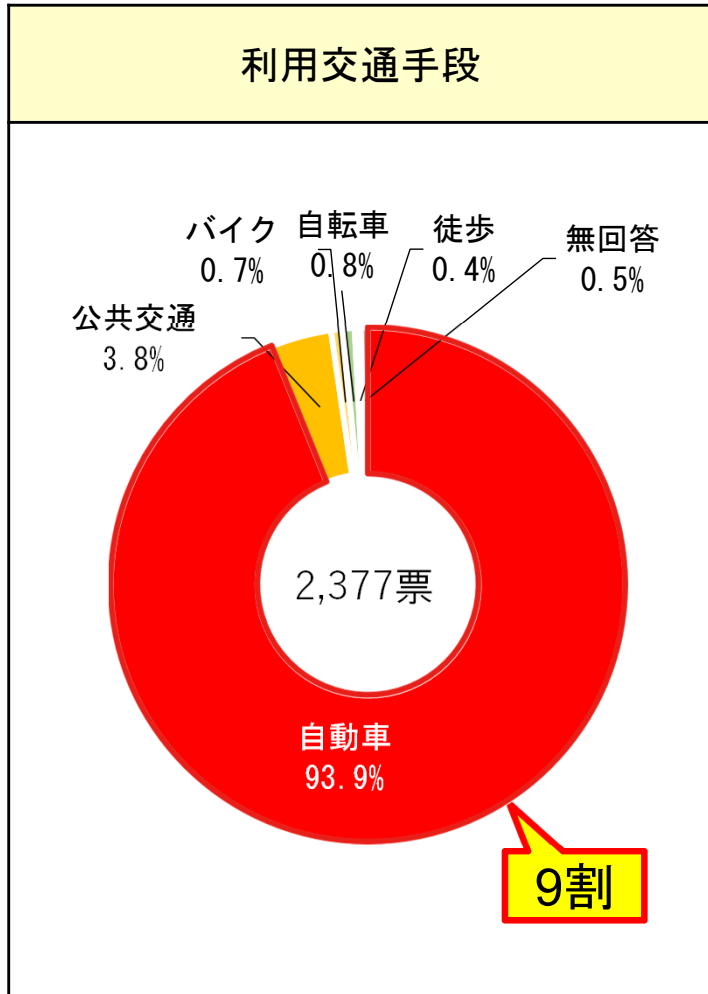
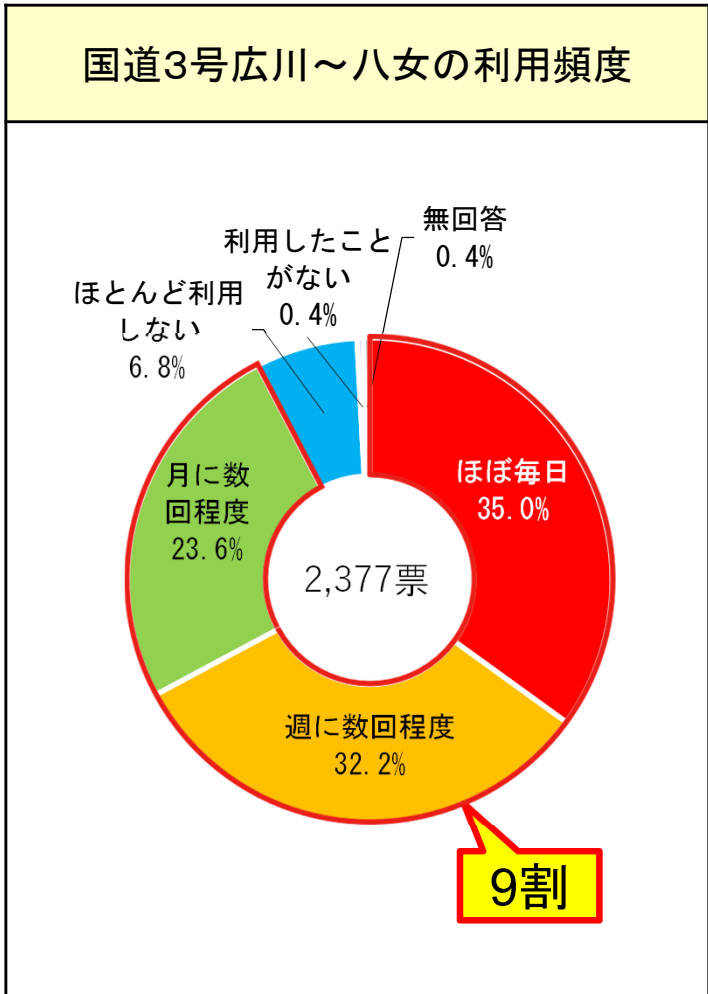
第2回意見聴取の結果(自治体への意見聴取結果)

■自治体への意見聴取結果【広川町】

最適なルート帯および構造の検討に必要な「重視すべき事項」について	意見(広川町)
① 渋滞せずに円滑に移動でき、沿道施設を利用する交通の阻害を受けないこと	案①、②の整備の場合は、国道3号の工業団地入口交差点への接続となり、国道3号の久留米市から広川町間の渋滞問題は継続して残ることから、久留米市から広川町の交通分散も図られる案③の整備が望ましい。 ※案③であれば、当面の間は久留米立花線等を介することで久留米市から広川町の交通分散がはかられ、将来的にも久留米市方面への新たなバイパス等を検討される場合でも案③は他案に比べ接続しやすいと思う
② 事故の危険性が少ないこと	現道の歩道は狭小区間が多く大型車交通量が多い本線では、交通事故も多発し死亡事故も発生しており、自転車通行等は非常に危険な状況です。安心して通行できるためにも、通過交通(特に大型車)を排除できる道路整備が望ましい。
③ 災害や冠水時に国道3号の代替路として利用できること	近年、多発する豪雨災害等により、交通が麻痺する状況が多くなっています。長延川との交差部分では、集中豪雨時に冠水する場合もあるため、水害対策も必要。また、高速道路が通行止めとなった場合、高速利用者が国道3号に集中することから、現国道3号に代わる新たな道路整備が必要と考えます。
④ 輸送を効率化し、地域の企業活動・農業振興を支援すること	本町は、農業を基幹産業として発展してきた町であり、いちご・なし・ぶどう等の農産物の豊かな町です。こうした農産物の物流輸送では、鮮度に影響することから、速達性が求められます。また、国道沿線には2つの工業団地を有するなど、様々な産業が息衝く町でもあります。立地企業からは、物流ルートとして利用しているところもあり、渋滞による企業の損失もあると聞いています。今後、本町では、広川ICに近いという立地特性を活かした新たな工業団地等の開発も広川東部地域に検討をしており、町としては、重要物流道路や産業道路として活用できる案③の道路整備を望みます。
⑤ 救急時に久留米医大、聖マリア病院に早く行けること	第3次救急医療施設は、久留米市にしかなく、将来的には久留米市方面へのアクセスも必要と考えます。
⑥ 観光地への所要時間が短いこと	本町の観光資源は久留米餅等の地場産品であり、点在する餅工房へは車でのアクセスが不可欠です。国道3号の渋滞は餅工房めぐり等に影響していることも考えられます。このため、本町への観光地までの時間短縮は重要と考えます。
⑦ 生活環境(騒音など)への影響が小さいこと	本線の国道3号沿いには、商業施設のほか、集落も密集しており、騒音・振動問題で悩まされている方もいます。このため、集落地への影響が最小限となり、集落分断等による地域コミュニティの崩壊を招く道路整備は避けていただきたい。
⑧ 自然環境(動植物など)への影響が小さいこと	本町は、東に耳納連山を望むことのできる自然豊かな町でもあります。国道3号のバイパス化によって、こうした自然環境に親しめる道の駅構想も検討しています。一方で、農業基盤となる農地については、ほ場整備等で区画整備しており、こうした整形された区画を斜めに切り取るような道路計画はできる限り最小限にして頂きたい。
⑨ 家屋や店舗の移転が少ないこと	家屋・店舗への影響は出来る限り最小限に留めてもらうことを希望。特に集落分断等による地域コミュニティの崩壊を招く道路整備は避けていただきたい。そのためには、公共地(公有地)の活用等は積極的に協力する。
⑩ 沿道からの利用が便利なこと	まちづくりには道路整備は不可欠であります。本町では、住宅地から離れた道路を望んでいますが、そうしたバイパス道路の沿線に新たな工業団地や道の駅等の整備を検討しています。
⑪ 施工中の影響が小さいこと	現道拡幅であれば、渋滞している道路のさらなる悪影響も考えられます。現国道3号は、主要都市を結ぶ基幹幹線道路であり、この道路の麻痺は様々な影響を与えます。また、集落分断等による道路整備は施工中にも影響が大きいことから、集落等への影響が最小限となる道路整備を望みます。
⑫ 整備費用が安いこと	公共事業の費用対効果は重視されるものであり、少しでも安価な道路整備を望みます。
その他	案①の現道拡幅案では、現道周辺の商業施設等を移転させる必要があり、コストも掛かりますが、供用開始にも時間を要することが考えられます。さらに道路周辺の商業施設を移転させることで、周辺のまちづくりに与える影響もあると考えられます。 案②及び案③はバイパス計画ですが、案②の場合、点在する集落地の中を道が通ることとなり、騒音や振動等の居住環境に対する課題が出てくるのが考えられます。この案で沿線利用が出来れば、地域活性化に役立ちますが、ルート地は住宅地とほ場整備等の農振農用地であることから、開発を望むことは難しいと考えられます。 一方、案③の山側ルートでは、出来るだけ集落地を避け、住環境に与える影響を最小限に押さえることが出来ると思います。 また、本町では、広川ICに近いという地域特性を活かし、人口減少対策として雇用の場の創出と地域活性化のため広川東部地域に工業団地等の整備計画を検討中です。こうした整備にはアクセス道路が不可欠であり、町としては、重要物流道路や産業道路になり得る案③を希望し、道路整備とあわせて開発計画に取り組んでいこうと考えております。

第2回意見聴取の結果(参考:【回答者属性】)

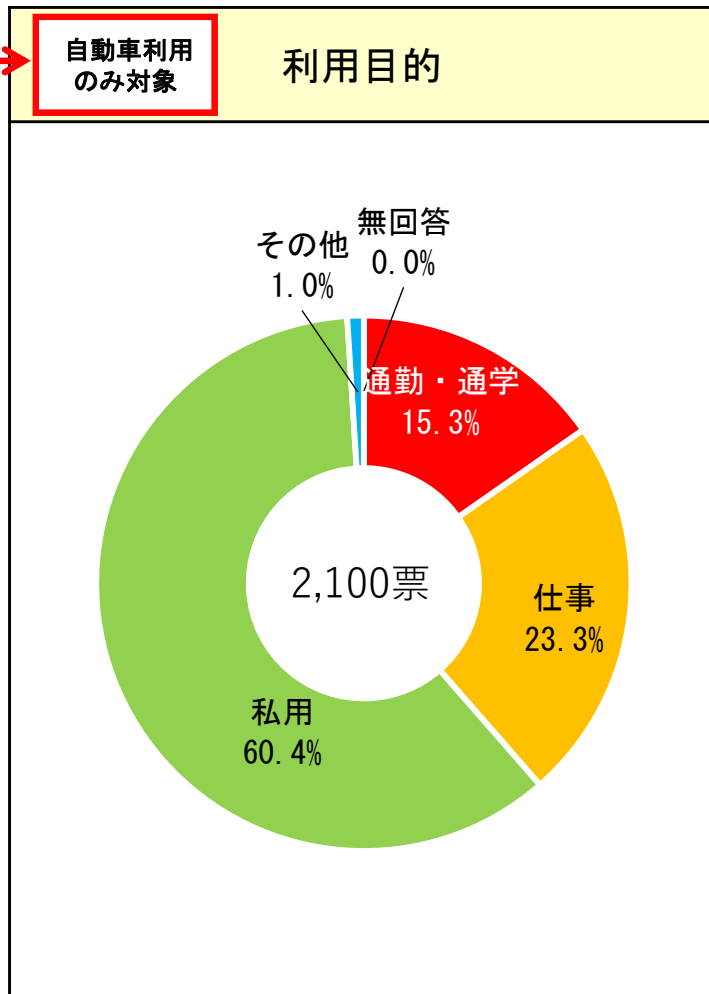
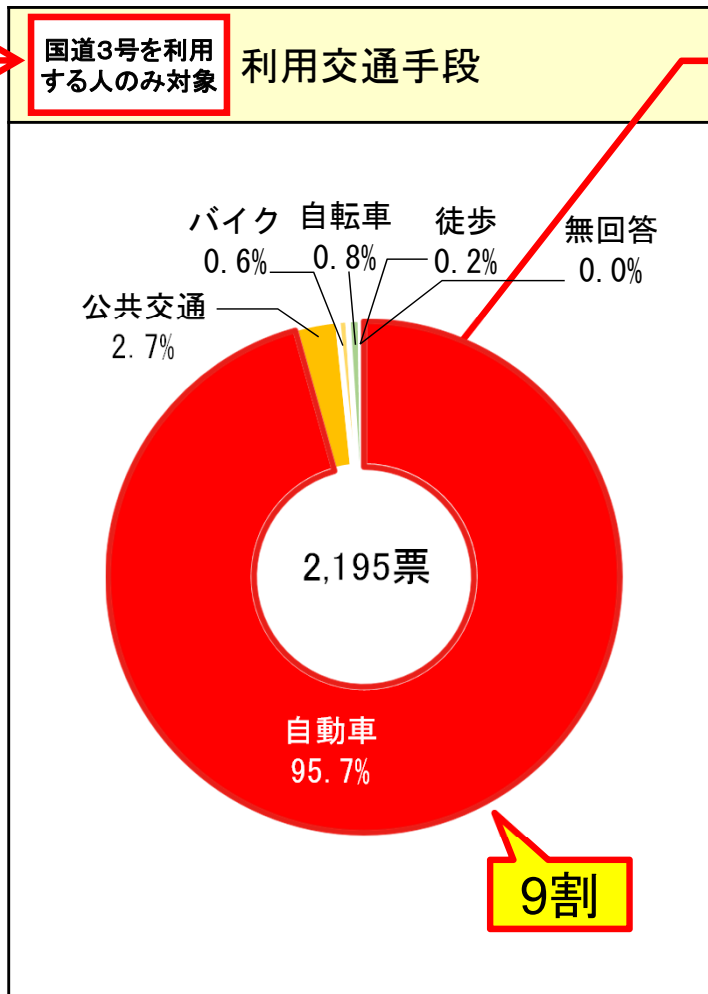
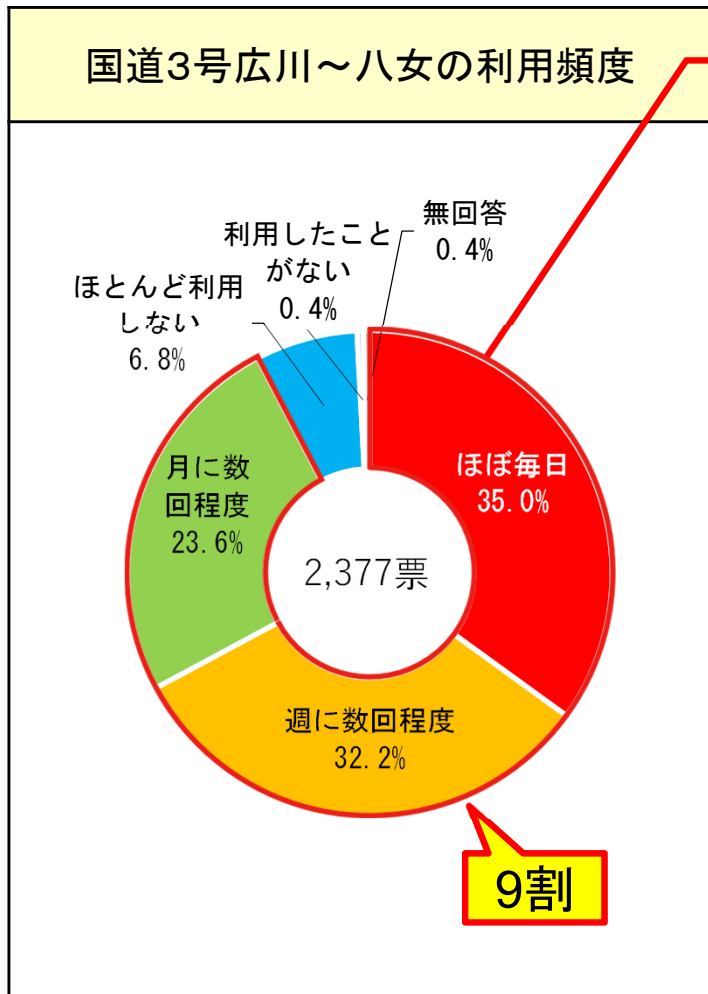
- 回答者の9割以上の方が対象区間を利用している。
- 利用交通手段の9割以上が自動車を利用している。
- 利用目的は私用の割合が最も高く約6割、次いで仕事約2割、通勤・通学が約1割の順になっている。



※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

第2回意見聴取の結果(参考:【回答者属性】) 国道3号を利用する人のみ対象

- 回答者の9割以上の方が対象区間を利用している。
- 利用交通手段の9割以上が自動車を利用している。
- 利用目的は私用の割合が最も高く約6割、次いで仕事約2割、通勤・通学が約2割の順になっている。



※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある